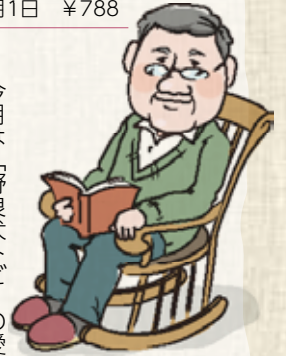


# 「野良犬トビーの愛すべき転生 前編」



著者：W・ブルース・キャメロン  
訳：青木多香子  
発行：新潮文庫  
ISBN：9784102180815  
2012年7月1日 ¥788



今月は「野良犬トビーの愛すべき転生」をご紹介します。この本は昨年アメリカでベストセラーになり、本年7月に新潮文庫から文庫本として発行されました。犬が輪廻転生し、全編がその犬の目を通して描かれています。野良犬として生を受けたトビーがゴールデンレトリバーのベイリーに転生し、次にはジャーマンシエパードのエリアーに、最後はラブラドルレトリバーのバディーに生まれ変わります。以前の記憶を残しながら4つの犬を生きたという設定になっています。野良犬として生まれたトビーは母親と兄のファスト、姉のシスターとともに篤志家に保護され野良犬生活に別れを告げます。収容された施設にはたくさんの先住犬が居て、トビーの一家も犬社会の洗礼を受けます。「オスたちの一匹が動いていってファストの進路をさえぎるように正面に座り、もう一匹がファストのまわりを回って自身たっぷりに背後から匂いを嗅ぐと、僕のあわれな兄は体をすくめた。尻を落とし、向きを変えて背後にいるオスに直面すると、尻尾を丸めて両足の間に滑り込ませた。数秒後にファストが仰向けになり、捨て鉢になってじゃれるように身をよじった時、僕は全く驚かなかった。」このように犬の生

態についての記述も正確で納得できるものです。その秩序ある犬社会がスパイクという乱暴者の新入りによって破壊され、トビーも足を咬まれ大怪我を負ってしまいます。直後、当局の強制執行によりトビーは捕獲され、「傷を負った犬は貴い手がないだろう」という理由で、ガス室でその短い生涯を終えることとなります。眠りから覚めたトビーは自分が子犬に戻っていることに気が付きます。トビーはゴールデンレトリバーのベイリーとして2番目の犬生を得たのです。無邪気で陽気なベイリーが引き起こすトラブルやいたずらは「ゴールデンならかくありなん」と思われる事ばかりで、飼い主一家がベイリーに対して行うしつけが如何に的外れているか、ベイリーの目を通してユーモラスに描写されます。飼い主であるイーサン少年と、ベイリーの心あたたまるエピソードが綴られて、祖父の田舎での体験を通してイーサンとベイリーは深い絆を結んでいきます。しかし、物語に近所に住むトッド少年が登場すると、不吉な予感が漂い始め、やがて最悪の事件が起きてしまいます。トッドがイーサンの家を放火をし、イーサンが足に大怪我をしておしまふのです。ベイリーのお手柄でトッドは逮捕されるのですが、怪我がもとでイーサンはフットボールと恋人を失い、両親も離婚して、ベイリーも最後の時を迎えるのですが・・・以下次号に

今月の保健所だより  
「飼い犬と外出するうえでのマナーについて」

飼い犬との外出は楽しい時間です。近頃はどこへでも犬と一緒にでかける方が増えてきました。その一方、排泄物の放置や放し飼い等のマナーに関する苦情も増えてきています。

公園や河川敷などへ犬と散歩にでかける方を多く見かけますが、排泄物を持ち帰る道具を持っていない、または、道具を持っていても拾わず、排泄物を放置したままにしている方がいます。土壌の肥料にと仰る方もいますが、分解されるには1年以上の時間がかかり、その間他の方を不愉快な気持ちにさせることとなります。公共の場所は犬の飼い主さん以外の方も利用する場所ですので、排泄分は必ず持ち帰ってください。そもそも、排泄と散歩は別であり、排泄は自宅敷地内で済ませることが望ましいものです。

また、犬を放す方もいますが、公園はドッグランではありません。犬が嫌いな方も公園を利用しますので、絶対に放さないでください。公園ではよく咬傷事故も発生します。飼い犬が人を咬んだ場合の責任はすべて飼い主さんが負うこととなります。実際に訴訟も起きています。犬好きの人の独りよがりや犬嫌いの人を作ることもなりますので、他の人と不快な思いをさせないためにも、また、人と動物が共生できる地域にするためにも、飼い犬と外出するうえでのマナーを守ってください。

問い合わせ先 郡山市保健所生活衛生課動物愛護係 〒963-8024 郡山市朝日2丁目15-1  
☎024・924・2157 ☎024・934・2860 E-mail: sei-eisei-aigo@city.koriyama.fukushima.jp